

年間指導計画と実践で活用できる事例〔3歳児〕目次

1	3歳児 年間指導計画	8
3歳児 実践で活用できる事例		
	「自分で、できたよ」（生活）4月	16
	「ヒーローだよ」（人とかかわり）10月	18
	「お姫様になりたい」（学び）11月	20
	「園生活を理解してもらいましょう」（保護者との連携・理解啓発）4月	22
	「クラスの親子で楽しく過ごそう」（保護者との連携・理解啓発）4～5月	24
	「園生活を理解してもらいましょう」（保護者との連携・理解啓発）6月	26

第2章 年間指導計画と実践で活用できる事例

3歳児



1 3歳時 年間指導計画

3歳児年間指導計画 4月～5月

同じような内容ごとに(点線の枠)でまとめた。内容が重なるものについては枠が重なるように表示。3つの柱にまたがるものについては、枠もまたがって表示。枠の記載場所は時系列ではない。

4歳児

5歳児

1年生

台東区の幼児教育がめざす姿

〇〇自然や身近なことに興味をもち、自ら考え、豊かに表現する子供
 〇〇やさしい心をもち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供
 〇〇健やかな心と体をもち、きまりを守り行動できる子供

		内容	
3つの柱	生活	ねらい てがみ 〇保育士・教員と一緒に生活に必要なことを手伝って自分でもやってみようとする	<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方を知り、保育士・教員に手伝ってもらいながら自分でできた喜びを味わう →P.16 手洗い、うがいを自分でしようとする ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 入園当初新入園児は自分の持ち物の置き場所があることを知り、保育士・教員と一緒に始末をする →P.16 園の遊具や用具の扱い方を知る 保育士・教員の言葉掛けにより、危ないところ分かる
	人のかかわり	ねらい 〇保育士・教員に触れたり甘えたりし、親しみをもつようになる	<ul style="list-style-type: none"> みんなで過ごすために必要な約束を知る(順番、遊具の貸し借り等) →P.166 自分のものや他の人のもの、皆で使うものの違いに気付く ☆規範意識の芽生えの育成② 自分が保育士・教員に受け入れられていると感じる 身近な動植物に触れたり見たりしながら、親しみをもつ 保育士・教員からのあいさつを受け、親しみの気持ちをもつ ☆こころざし教育③ 道徳の基礎
	学び	ねらい 〇気に入った遊びや場を見つけて遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいこと、してほしいことや困ったことなどを、保育士・教員に自分なりの動きや言葉で表し、伝えようとする ・保育士・教員の読む絵本や紙芝居に興味・関心をもつ ・目に付いたものや興味をもった物を見たりそれに触れたり動かしたりして楽しむ ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 →言葉・表現の基礎 ・保育士・教員のすることに興味をもち、初めてのこともやってみようとする ・保育士・教員が作ったものを持ちたり身に付けたりして遊ぶ ・緊張感をほぐしながら、リズムや音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ ・水・砂・土・泥などの素材に触れて感触を楽しむ →表現活動の基礎 ・保育士・教員と一緒にままごと道具や砂場道具等遊具を種類ごとに分けて片付ける →文字・数量・図形の基礎 ・地域の文化や芸術に触れ、親しむ →P.232 ☆地域財産等の活用

保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育方針、1年間の教育活動を理解し見通しをもつ 子供の発達や育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する 保育士・教員に信頼感をもつ 家庭での生活状況を伝える
地域	<ul style="list-style-type: none"> 子供の発達や育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する 地域行事等で子供たちとかかわり、親しみをもつ
園児	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の方々を知る

連携の例	
保護者会	→P.22
家庭訪問	
親子遠足	→P.24
親子栽培	
園だより、学年だより等の配布	

☆地域財産等の活用	
地域の方々と出会う機会(入園式・定期健康診断など)	
地域行事への親子での参加(お祭り、朝顔市)	
地域の公園への遠足(上野動物園)	→P.232

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)①「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

→P.〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)
1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> ・何をしてもよいという自由感を感じられるように、スキンシップを図りながら、子供のしていることに共感したり受け止めたりしていく ・進級児は徐々に新しい環境に慣れて2歳児までの生活を引き継いでいけるようにし、新入児は自分の居場所を見つけて安定できるように経験や生活の流れの違いを考慮して接していく ・はっきりした形や色のシールを目印に付けて、持ち物を置く場所が分かるようにしたり、遊具の置き場にも親しみやすい絵などを付けて、使いやすく、片付けしやすいようにしていく ・生活の仕方を具体的に知らせ、安心して過ごせるようにする ・生活面については、個に応じてかわり、子供が自分でしようとする気持ちを認めていく ・気分を発散したり体を十分に動かしたりできる場や物を設定する ・園全体の協働体制のもと、連携を深めながら一人一人が安心してありのままの姿を出せるように温かく受け入れていく ・保育士・教員は自分のことを受け止めてくれたり、困ったときには助けてくれたりする存在であることが分かるように、一人一人とかわたり、やっていることを言葉に出し認めたりしていく ・不安そうにしている子供には、一緒に手をつないだり、一緒に遊んだりするなど、一人一人に応じてスキンシップをもち、徐々に落ち着いて過ごせるようにする ・子供が興味をもってかわたり、気持ちを紛らわせたりできるような動植物を環境に取り入れる 	<p>《家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように》 家庭にあるような遊具(ぬいぐるみ、ミニカー、ままごと、積み木、ブロック、粘土など) 砂遊び 泥遊びなど</p> <p>《弁当や給食を楽しみにできるように》 絵本「きょうのおべんとうなんだらな」 「ぼくのおべんとう」「わたしのおべんとう」</p> <p>《気分を発散したり体を十分に動かしたりできるように》 すべり台 巧技台 かけこ 三輪車 リズム遊び「動物たいそう1、2、3」「チェッチェッコリ」</p> <p>《身近な動植物に興味をもってかわられるように》 子供が扱いやすい餌や水遣りの容器 柵を活用する等、かわる場の設定</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今まで楽しんだことのある遊具や興味をもちそうな遊具を用意し、親しみをもったり、やってみたくて使ったりできるようにする ・子供の遊びの様子を見ながら、安全に遊べるよう遊具を片付けたり、場の整理をしたりする ・集まると楽しいことがあるということが分かるような工夫をしていく ・子供たちが「なんだらう」「やってみたくて」と思えるように、教材の精選や置き場所等の配慮をする ・保育士・教員が積極的に遊びや環境にかかわり、楽しさを表現し、子供たちの意欲を引き出す ・製作など、興味をもった子供から保育士・教員と一緒にいき、保育士・教員と一緒にするとできるという気持ちを感じられるようにしていく ・地域の祭りでの経験を教育活動に取り入れていく 	<p>《親しみをもってやってみたくて取り組めるように》 ままごと(ぬいぐるみ、人形、乳母車、キッチン台、食器類等) 素材(小麦粉粘土、紙類、マーカー、パス等) お面バンド 絵本(家庭で親しんでいるもの) 積み木 汽車・電車・レール ブロック フロアカー 親しみのある動物やヒーローの塗り絵 砂あそび(シャベル、バケツ、型抜きカップ、水等) すべり台等</p> <p>《集まると楽しいことがあると思えるように》 手遊び「むすんでひらいて」 絵本「とりかえっこ」「ぼくのくれよん」 歌「チューリップ」「せんせいとおともだち」「バスごっこ」 紙芝居 リズム遊び等</p> <p>《初めてのことに保育士・教員と一緒にしていけるように》 こいのぼり作り</p> <p>《緊張感をほぐすために》 リズム遊び「動物たいそう1、2、3」「チェッチェッコリ」</p>

家庭との連携

- ・進級、入園による喜びや新しい環境への不安な気持ちを受け止め、園での様子を伝えたり、家庭の様子を聞いたりして連携を密にしていましよう
- ・今年度の保育・教育方針や行事の日程、意義などについて保護者会などで分かりやすく伝え、保護者が安心できるようにいましよう
- ・身の回りのことを自分でしようとする力につながるように、服や袋など所持品は子供の扱いやすいものを用意するように具体的な見本を示して伝えましよう
- ・自分なりに好きなことを十分に楽しみ表現することが、安心感や意欲等につながり、これからの成長の基になることを、具体的な子供の姿から、折に触れ伝えていましよう

地域との連携

- ・地域の方々に親しみがもてるよう、入園式や地域の祭礼を見学した際に出会った地域の方々に保育士・教員があいさつする姿を見るところを大事にいましよう
- ・近隣の公園の花や地域の祭礼など地域の自然・行事を保育に取り入れ、地域に親しむ気持ちをもてるようにいましよう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)
(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3歳児年間指導計画 6月～9月

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

台東区の幼稚園がめざす
 ○○自然や身近なことに
 ○○やさしい心と体をもち、
 ○○健康な心と体をもち、
 ○○やさしい心と体をもち、
 ○○自然や身近なことに
 ○○やさしい心と体をもち、
 ○○健康な心と体をもち、
 ○○やさしい心と体をもち、
 ○○自然や身近なことに

ねらい		内容	
3つの柱	生活	<ul style="list-style-type: none"> 保育士・教員の動きを見たり声を掛けられたりすることで自分でできることは自分でしようとする 手洗い、うがいなどを自分でしようとする ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 持ち物の始末や衣服の着脱、排泄、片付けなどのやり方を知り、保育士・教員に声を掛けられながら自分でしようとする 園の遊具や用具の扱い方を知る 水遊びの約束を知る 災害時引取り訓練を経験する 	<ul style="list-style-type: none"> みんなと一緒に体を動かす楽しさや、戸外で遊ぶ心地よさを体で感じる 広い場で思いきり体を動かす心地よさや簡単なルールのある鬼ごっこの面白さを感じる →運動・体力の基礎 ☆体力の向上④ 食事の準備や片付けの仕方が分りできることを自分でやってみる 野菜の収穫を身近に見て、収穫を喜び食べてみようとする →P.188 箸を使って食べようとする ☆食育①
	人のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> みんなと同じ場で、保育士・教員のまねをして、体を動かしたり、手遊びをしたり歌ったりする楽しさを感じる 面白そうなどをしている子供と同じ場で過ごしたり、同じような動きをしたりする楽しさを感じる みんなと過ごすに楽しさを友達と触れ合いになる 	<ul style="list-style-type: none"> みんなと過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールが分かる 生活や友達とのかかわりの中で、よいことと悪いことに気付く 自分のものや、他人のもの、みんなで使うものの違いを理解し、区別できる ☆規範意識の芽生えの育成② 保育士・教員に受け入れられ安心して過ごす →P.176 ☆こころざし教育③ 友達とかかわって遊ぶ中で、保育士・教員の仲介のもと相手に自分とは違う思いがあることを感じる 保育士・教員からあいさつを受け、あいさつを返そうとする →P.176 ☆こころざし教育③ ☆地域財産等の活用
	学び	<ul style="list-style-type: none"> 遊びのなかで、自分なりの動きや言葉で表現することを楽しむ 保育士・教員や友達の話に興味をもつ 保育士・教員と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ 水を使ったいろいろな遊びをすることで、水に触れる心地よさを感じる 身近な動植物に興味をもつ 身近な秋の自然に触れたり、収穫する楽しさを味わったりする ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 →言葉・表現の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> 水や砂、粘土などの感触を楽しみ、開放感を感じたり、のびのびと自分の動きを出したりする 気に入っている遊具や遊びの場を見つけて、自分なりの遊び方で遊ぶ面白さを感じていく 好きなものになりきって動いたり、身に付けて遊んだりする楽しさを味わう 自分のしたい遊びを見つけて繰り返し楽しむ 身の回りにあるいろいろな素材にかかわり、感触を味わう、見立てる、作るなどして遊ぶ。 材料や用具に触れ、作る楽しさを感じる →表現活動の基礎 身近なもの的大小、色、形、多い少ない等の違いに気付く →文字・数量・図形の基礎

保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の子供の成長を喜ぶ 夏休みを前に園との連携を密にする(幼稚園) 2学期の教育方針や教育活動について理解する
地域	<ul style="list-style-type: none"> 子供の発達や育ちを知り就学前教育や家庭教育の大切さを理解する 地域行事等で子供たちとかかわり、親しみをもつ
園児	<ul style="list-style-type: none"> 地域の話や園児の話を聞いたり、雰囲気を感じたりして、地域への親しみをもつ

連携の例

- 個人面談
- 親子歯みがき指導
- 保育参加
- 災害時引取り訓練
- 園だより、学年だより等の配布

→P.26

☆地域財産等の活用

- 地域行事への親子での参加(お祭り、朝顔市、盆踊り)

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)①「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

□P.〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)
 1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ、体調などで疲れが出てくる時期なので、一人一人の様子をよく把握したり、休息、水分補給の取れる場や静かに遊べる場を作ったりする ・身の回りの始末や片付けを自分でやろうとしている姿を見守ったり、励ましたり、できないときには保育士・教員がやり方を知らせながら手伝ったりして、自分でしようとする気持ちを育てていく ・プールや水遊びに必要なことや約束を分かりやすく話したり、絵に描いて示したりして一人一人に応じて援助する ・体を動かしたり、近くにいる子供と同じように動いたりする楽しさを感じられるようなものを用意しておく ・保育士・教師と共に災害時引取り訓練に参加し訓練の大切さを感じる 	<p>《健康に、安心して過ごせるように》 水分の用意 空調の配慮</p> <p>歌「せつけんさん」「あいさつのうた」</p> <p>《野菜や野菜の収穫に興味・関心をもてるように》 絵本「やさい」「いちご」「くだもの」</p> <p>《近くにいる子供と同じように動く楽しさを感じられるように》 水・プール遊び(ジョーロ、バケツ、金魚すくい用の遊具、水車など)</p> <p>《防災の意識をもてるように》 災害時引取り訓練</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが通らなかつたり、ものの取り合いなどでぶつかり合ったりしたときは、気持ちを受け止めながら気分転換させたり、相手の思いも少しずつ伝えたりしていきながら、かかわり方を知らせていく ・はじめての経験で不安に思ったり、自分からかかわれずにいる子供には保育士・教員と一緒にやったり、楽しそうな姿を見せたりして、一人一人の遊びが十分楽しめるようにする ・友達のかかわり方を知らせるために、それぞれの思いを受け止め、言葉に出し、双方に伝えていく ・生活や遊びに必要な簡単なルールを言葉で伝えるとともに絵やマークを使って分かりやすく伝える ・ルールを守っている場面をとらえ、言葉に出して認めていく ・ゆったりと安心して過ごせるような場や空間を作っておく ・興味をもったり気に入ったりしているものを十分用意し、安心して自分のやりたいことができるようにしていく 	<p>《みんなと同じ場で、手遊びをしたり歌ったりする楽しさを感じられるように》 手遊び「おべんとうばこのうた」 歌「おつかいありさん」「ぞうさん」「トマト」 「いぬのおまわりさん」</p> <p>《保育士・教員や友達と同じ場で自分なりの動きが出せるように》 鬼遊び「むっくりくまさん」「おおかみさん今何時？」 「おおかみさん」 砂遊び 水遊び ちようちよになって飛べるような曲やうさぎやぞうなどになって動けるような曲 リズム遊び「動物たいそう1、2、3」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・安心してその場にいられるように、早く集まった子供が楽しめるような歌を聴いたり、絵本を見たりしながら待つことができるようにしていく ・一人一人が楽しんでいることを受け止めて、言葉に出して認めていく ・身に付けたり見立てたりして、なりきって遊んでいる一人一人の思いや姿を受け止め、自分なりの楽しみ方ができるようにしていく ・感触を楽しんだり開放感を味わったりできるものを、天候や遊びの様子に応じて設定していく ・身近な動植物の動きや変化に興味をもてるように、保育士・教員が知らせたり、かかわり方を具体的に教えたりして、触れられるようにしていく ・そのつど遊びの中に一緒に入りルールなどを知らせる 	<p>《安心してその場にいられるように》 絵本「でんしゃにのって」「ぞうくんのさんぽ」 「はらぺこあおむし」「くずかごおばけ」 「ぐりとぐらのかいすいよく」「きんぎょがにげた」 「ふうせんくまくん」「わにわにくんシリーズ」 歌のテープ「おもちゃのチャチャチャ」「かたつむり」「さんぽ」</p> <p>《身に付けたりなりきったりして自分なりの遊びを楽しめるように》 お面 布 スカート なりきれるような雰囲気を作る曲の入ったテープなど</p> <p>《遊びの基礎となるように》 七夕飾り(セロハンテープ、のり、はさみ) パスを使った描画 塗り絵</p>

家庭との連携

- ・9月は、生活の乱れや夏の疲れが出てくる時期なので、食事・睡眠・休息などの生活リズムを整え、体調に配慮することの大切さを保護者会や個人面談などで伝えましょう
- ・園生活の中で身の回りのことを自分でしようとしている姿を伝え、子供の成長を喜び合いながら家庭でも一つ一つの行動について時間的な余裕をもって取り組んでいくとよいことを伝えましょう
- ・園の行事(保育参観、夏祭りなど)に参加を呼びかけ、子育ての楽しさや子供の成長を知らせるとともに、保護者同士のかかわりを深めるようにしましょう

地域との連携

- ・夏の地域行事や活用できそうな施設を保護者に紹介し、親子で地域に親しむ機会をもてるようにしていきましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3 歳児
4 歳児
5 歳児
一年生

3歳児年間指導計画

10月～12月

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

台東区の幼児教育がめざす姿
 ○自然や身近なことに興味をもち、豊かに表現する子供
 ○やさしさをもち、自ら考え、豊かに表現する子供
 ○健康な心と体をもち、きまりを守り行動できる子供

		内容	
3つの柱	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でしようとする ・手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする ・排泄の際の身支度などを自分でしようとする ・季節に応じた生活の仕方を保育士・教員と一緒にしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり、踊ったりするなど、みんなと一緒に体を動かすことを楽しむ →P. 202 →運動・体力の基礎 ☆体力の向上④
	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理整頓など自分のことは自分でしようとする ・遊びの中で遊具の安全な使い方や動きに気付く ・次にすることが分かり、準備や片付けなど自分でしようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚や肉、野菜等様々な食べ物に興味をもつ →P. 190 ☆食育①
	人のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場にいる友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ →P. 18 ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを保育士・教員に自分なりの言葉や方法で伝えようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールが分かり、みんなと一緒に遊ぶことを楽しむ ・同じ遊びの場で友達と一緒にいたり、かかわったり、触れ合ったりすることに快さを感じる →P. 18 ☆規範意識の芽生えの育成② ・保育士・教員に受け入れられ安心して過ごす。 ・友達と同じことがしたいという気持ちが高まり一緒に遊ぼうとする →P. 18 ☆こころざし教育③ →道徳の基礎
	学び	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いやイメージを動きや言葉で表す楽しさを感じる →P. 20 ・絵本や紙芝居を友達と見たり聞いたりして楽しむ →P. 220 ・秋・冬の自然に触れたり、身近な自然を遊びの中に取り入れたりする ・遠足や散歩の中で、秋の自然に触れたり収穫したりする喜びを味わう ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 →言葉・表現の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・気に入った遊具や用具などを使って遊んだり、気に入った物を身に付けたりして十分遊ぶ ・自分のやりたい遊びを見つけ、繰り返し楽しむ ・手遊びや歌や踊りを保育士・教員や友達と一緒にすることを楽しむ ・身近にあるもので描いたり作ったりする楽しさを感じる ・リズムの変化に合わせて体を動かし、身近な動物や乗り物の動き等を体で表現して楽しむ ・見立てて遊んだり、なりきって動いたりする楽しさを感じる ・身近な材料や用具を使って、好きなように作ったり、描いたり、遊んだりする →表現活動の基礎 ・身近なものの大小、多い少ない、色、形、等の違いに気付く →文字・数量・図形の基礎 ・地域の文化や芸術に触れ、親しむ ☆地域財産等の活用

保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や生活発表会など行事での子供の姿を通して、成長を感じる ・2学期の子供の成長を喜ぶ
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達や育ちを知り就学前教育や家庭教育の大切さを理解する ・地域行事等で子供たちとかわり、親しみをもつ
園児	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお話を聞いたり雰囲気を感じたりして、地域への親しみをもつ

連携の例

- ・運動会への参加、手伝い
- ・保育参観、保育参加
- P. 26
- ・園だより、学年だより等の配布

☆**地域財産等の活用**

- ・地域行事への参加(地域の運動会、羽子板市、酉の市等)
- ・地域の公園への散歩

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)①「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

「P.〇〇」は、関連する事例が掲載してあるページを示す

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)
 1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> 生活のことは、一人一人に応じて手助けしたり励ましたりしながら、自分から気付いてやっという気持ちを引き出す イラストやパネルシアター等を活用し、手洗い・うがいの仕方、弁当の片付け等を視覚的に訴えていく 用具の置き方の高さを配慮し、自分でしようという気持ちをもてるようにする 手洗い、うがいの習慣が身に付くように個々に応じて保育士・教員が声を掛けるようにする 生活の流れの中で準備や片付け等に気付いて自分からやっという姿を認め、楽しい雰囲気を取り組めるようにする 片付けの後に楽しいことがあることを知らせておく 保育士・教員も一緒に片付けながら、次の活動の内容を知らせたり、片付けてきれいになっていく気持ちよさを味わわせたりする 体を動かす心地よさや自分でやってみようとする気持ちが感じられるものを用意する 運動会で発表した演技を繰り返し遊べる環境を整える 保育士・教員も一緒に走ったり踊ったりしながら体を動かして遊ぶ楽しさが感じられるような親しみやすい体操を行ったり、リズムの曲を取り入れたりする 食事に使われている野菜に触れる機会をつくる 	<p>《生活に必要なことに気付けるように》 手洗い・うがいの絵表示</p> <p>《魚や肉、野菜など様々な食べ物に興味をもてるように》 いもほり遠足などで収穫した野菜を食べる機会</p> <p>《体を動かす心地よさを感じられるように》 《繰り返し楽しめるように》 マット 巧技台 トランポリン スクーター 三輪車 保育士・教員が一緒に追いかけて、かけっこ 親しみやすい体操やリズム「パチパチマンたいそう」 「らーめんたいそう」「エビカニクス」「ガッチリガード」 「キッズ体操」「昆虫太極拳」「あぶくたつた」「むっくりくまん」 「おおかみさん」2か所の引越し鬼(一緒に移動する楽しさ) 運動会の経験</p>
<ul style="list-style-type: none"> あいさつする姿を認めあいさつをしたり触れ合う快さに共感したりする 簡単なルールのある遊びを取り入れていく みんなですることの中で、一人一人の動きを認めていく 	<p>《簡単なルールが分かりみんなで一緒に遊ぶことを楽しめるように》 引越し鬼 色鬼(フープ鬼) おおかみさん今何時 《同じ場にいる幼児とのかかわりを楽しめるように》 囲いや衝立 小さなテーブル シート 2~3人入れる段ボール箱等 マント スカートなど身に付ける同じもの 《地域とかかわり、親しみをもてるように》 公園への散歩 お茶会 歌の会等 《皆と一緒に遊んだり、なりきって表現したりする楽しさを感ぜられるように》 歌「大きな栗の木の下で」「松ぼっくり」 絵本「おおきなかぶ」「てぶくろ」「三びきのやぎのがらがらどん」 表現遊び 《異年齢とのふれ合いを楽しめるように》 散歩(手をつないで) おいもレストランへの招待</p>
<ul style="list-style-type: none"> 運動会で発表した5歳児のあいさつや演技をまねて遊ぶ環境を整える 	<p>《みんなと一緒にすることを楽しめるように》 リズム遊び「鬼のパンツ」「赤鬼と青鬼のタンゴ」「ビビデバビデブー」 身近な動物や乗り物などの表現遊び 歌「さんぽ」「アイアイ」 「手をたたきましょう」</p> <p>《自分のしたい遊びを見つけて遊び出せるように》 ままごと(ぬいぐるみ、人形、乳母車、キッチン台、食器類等) 素材(小麦粉粘土、紙類、マーカー、パス) 積み木 汽車 電車 レール ブロック 絵本 フロアカー すべり台 砂あそび(シャベル、バケツ、型抜きカップ) 《自分たちで取り出して場作りしやすいように》 ごさ じゅうたん 段ボールの衝立等 《自分なりのイメージを3歳なりに表現できるように》 素材(小さな空き箱、ラップの芯、紙テープ、広告紙 ストロー等) 表現遊び 《遊びのきっかけになるように》 絵本「おおきなかぶ」「てぶくろ」「もりのおふる」「りんごがドスン」 「三びきのやぎのがらがらどん」「おでかけのまえに」 「ねずみくんのチョコキ」等ねずみくんシリーズ 《自然の面白さを感じられるように》 落ち葉の色、大きさや形の違い 風の冷たさ、強さ等 どんぐり、落ち葉等自然物を遊びにとりいれる 歌「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」 《保育士・教員の提示したものに興味をもって取り組めるように》 クラスみんなで取り組む表現遊びや歌 ツリー作り</p>

家庭との連携

- 運動会や生活発表会など行事への参加は個人差があることを伝え、一人一人の成長を感じてもらえるようにしましょう。保護者が成長の見通しや期待をもてるよう、3歳児の発達について伝えていきましょう
- 「なぜ」「どうして」の質問が多くなる時期なので子供の言葉や気持ちを受け止め、応じていくなど親子のかかわり方を具体的に伝えていきましょう

地域との連携

- 運動会や生活発表会の招待状を渡し、当日は子供とかかわってもらい、園の教育について伝えるなど、園行事を通して地域の方々とのつながりを深めていくようにしましょう
- 秋の自然や地域行事などを保育に取り入れ、地域に親しむ気持ちをもてるようにしましょう
- 親子で地域財産を活用できるよう働きかけましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)
 (平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3歳児年間指導計画 1月～3月

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

台東区の幼稚園がめざす姿
 ○健康やかな心と体をもち、きまりを守り行動できる子供
 ○やさしさや思いやり、友達と協力して物事をやりとげようとする子供
 ○自然や身近なことに興味をもち、自ら考え、豊かに表現する子供

ねらい		内容	
3つの柱	生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身支度や遊んだ後の片付け等をする中で、自分でできた満足感を味わう ・戸外に出るときは上着を着る等、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする ・衣類の着脱や始末、手洗い、うがい等身の回りのことを丁寧にやる <p>★生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で遊んだり固定遊具や巧技台を使って遊ぶことを通して、いろいろな体の動きを楽しむ ・いろいろな食物に興味をもち食べようとする ・食べ方やマナーなどを知りやってみようとする ・箸を使って食べることを喜ぶ <p>→運動・体力の基礎 ★体力の向上④ ★食育①</p>
	人のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士・教員や友達のしていることに興味をもって、自分からかかわって遊ぼうとする ・相手の動きや保育士・教員の話などから、相手にも思いがあることに気付いていく ・部分的に友達と思いが重なり合う楽しさを感じる ・みんなと一緒に歌ったり踊ったりすることに自分から参加し楽しむ ・4、5歳児のまねをし、一緒に遊ぶことを喜ぶ <p>★規範意識の芽生えの育成②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や安全に必要な簡単なきまりが分かる ・戸外で友達や保育士・教員と簡単なゲームなど集団遊びをして楽しむ ・友達とのかかわりの中で楽しく遊ぶためにきまりやルールがあることを知る ・簡単なルールのゲームをみんなで楽しむ楽しさを感じる ・遊びの中でルールを覚え、様々な思いを経験する <p>・保育士・教員に受け入れられ安心して過ごす。</p> <p>・友達と同じことがしたいという気持ちを高め、一緒に遊ぼうとする</p> <p>→道徳の基礎 ★こころざし教育③</p>
	学び	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しいこと、うれしいこと、いやなこと、考えたことを自分なりに言葉に出して表現する ・絵本や紙芝居などを見たり、聞いたりして言葉の面白さに気付く ・ごっこ遊びや好きなお話を簡単な劇遊びにして、好きな登場人物になりきって遊ぶ ・冬・春の自然に触れたり、体で感じ取ったりする ・身近な自然に興味をもち、遊びに取り入れて楽しむ <p>★生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</p> <p>→言葉・表現の基礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びをこうしようという思いをもって、繰り返し楽しむ ・見立てたり、つもりになったりして、自分の思いを出しながら遊びを楽しむ ・身近にある物を使って、イメージを出しながら遊びの場を作る。 ・音楽に合わせて、リズム楽器を自由に鳴らしたり、体で表現したりする ・保育士・教員やみんなと一緒にイメージをもって動く楽しさを感じる ・身近な教材や用具を使って、好きなように作ったり、描いたり、遊んだりする <p>→表現活動の基礎</p> <p>・身近なものの大小、色、形、多い少ないなどの違いに気付く</p> <p>・文字や数に関心をもつようになる</p> <p>→文字・数量・図形の基礎</p> <p>★地域の文化や芸術に触れ、親しむ</p> <p>★地域財産等の活用</p>

連携のねらい	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の教育方針や教育活動について理解する ・1年間の子供の成長を喜び合う ・進級に向けて、家庭で配慮することを知る ・子供と共に進級への期待をもつ
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達や育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する ・地域行事等で子供たちとかかわり、親しみをもつ
園児	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の話や聞いた話、雰囲気を感じたりして、地域への親しみを深める

連携の例
<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加 ・個人面談 ・学年末保護者会 ・園だより、学年だより等の配布

★地域財産等の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加(もちつき 豆まき 流しびな)

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)①「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士・教員と一緒に動きながら、片付けの後に楽しいことがあることを知らせ、期待をもたせ、片付けの取組を促していく ・自分でやろうとしている姿を認め励まし、自分でできたという喜びや満足感がもてるようにする ・「もうすぐ4歳児組」という子供の期待を受け止めて、具体的な姿から一人一人の成長したことを認める ・体を思いきり動かして遊べるような場を考え、遊具を用意する ・保育士・教員からあいさつをし、気持ちよさを感じ自分からあいさつをしようとする気持ちをもつようにする ・言葉で表したい思いが伝わるように、代弁したり助言したりし、その中で思いが伝わっていく快さが感じられるようにしていく ・トラブルが起きたときには、お互いの思いを温かく受け止めながら、相手の気持ちにも気付かせるようにする ・言葉のやり取りや体の触れ合いがもてるような、簡単なルールのあるゲーム遊びを取り入れていく ・一人一人が自分の思いを出したり伝えたりできるよう、また、互いの思いを受け止めて遊びが進められるように仲立ちしていく ・友達と気持ちが通じるうれしさやつながりを感じている姿に共感していく 	<p>《次にやることが3歳児なりに分かり見通しがもてるように》 片付けの後の活動や弁当・給食の後の活動が分かるような表示</p> <p>《4歳児組への期待をもち、自分の成長を感じられるように》 新入園児とのかかわりの機会 5歳児への感謝 お別れ会プレゼント 大掃除 遊園地ごっこへの招待 お別れ会や誕生会への参加 小松菜などの野菜の収穫や栽培 さやえんどうの種まき</p> <p>《言葉のやりとりや体のふれあいのある簡単なルールのある遊びを楽しめるように》 いちごみるく いす取りゲーム フルーツバスケット 追いかけ鬼 ひつつきもつき ダンス「鬼のパンツ」「おでんぐつぐ体操」 「こすってこすって」「ホ・ホ・ホ」 絵本「もこもここ」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・周りの子供とのつながりを感じたり、同じようなイメージの世界に浸って動いたりできる場や物を用意したり、必要に応じて作ったりする ・子供が使いたいものを自分で取り出し自分から遊びだせるように、素材や用具、教材等を使いやすいように、取り出しやすい場所に用意する ・自分がしたいことをしたり、見立てたり、つもりになったりして遊べる物、場作りができる物や身に付けたり持ったりして遊べる物を用意する ・いろいろな見立てを楽しんだり、自分なりの思いを出したりしている姿を受け止め、具体的な言葉や表情に表して認めていく ・作ったり描いたりする素材をいろいろ準備し、必要な用具の扱い方を個に応じて教えていく ・遊びを移行する時は、一人一人に声をかけて、片付けができるようにしていく ・保育室内に冬、春の自然を感じられるものを置いたり、戸外に誘い自然に触れる機会をつくったりする ・自然にかかわる中で子供が感じたことを受け止め、共感したり、周りの子供にも伝えたりする ・3歳児なりに文字や数にふれる機会をつくり、興味をもたせていく 	<p>《身近にある物を使って、イメージを出しながら遊びの場を作ったり、なりきったりして遊べるように》 段ボールの囲い 積み木、 同じような格好のできる物、持ち物(スカート、マント、バックなど) 自分なりに作ったり見立てたりできる素材</p> <p>《友達とのやりとりの楽しさを感じられるように》 表現あそび「おおきなかぶ」「からすのせつけん」 鬼あそび「おおかみさん」「引越し鬼」 くり返しのあるストーリーの絵本「おおきなかぶ」「てぶくろ」 「わたしのワンピース」</p> <p>《自分なりに作るおもしろさを感じられるように》 凧、鬼のお面、ひな人形作り</p> <p>《3歳児なりに文字や絵に親しめるように》 カルタ パズル 絵合わせ等 文字のパズルやブロック</p> <p>《季節が感じられるように》 歌「コンコンジャンのうた」「北風のチャチャチャ」「ゆき」 「ゆげのあさ」「ボンボンと春が来た」 氷 雪 白い息 など クロッカス・チューリップなどの球根植え 絵本「てぶくろ」</p>

家庭との連携

- ・子供の1年間の成長を具体的に保護者に伝えて喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげていきましょう
- ・3歳児は個人差が大きいので、進級が近づくと保護者は不安な気持ちをもつことがあります。今できることを十分に認め、成長を見守る事の大切さを伝えていきましょう
- ・自己主張や自立心が強くなる一方甘えたい気持ちもある時期です。それらの気持ちを温かく受け止めることが子供の成長にとって大切なことであることを一人一人の発達状況に合わせて伝えていきましょう

地域との連携

- ・もちつきや豆まきなど地域の行事の情報を伝えましょう。できれば親子で参加できるように伝えていきましょう
- ・地域の方々への親しみが増すよう、修了式など園行事で保育士・教員が地域の方とあいさつする姿を見たり、一緒にあいさつしたりする機会をつくりましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)
(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)



3つの柱 生活 (例)

「自分で、できたよ」(朝のしたく)

3歳児 4月

《ねらい》

- 生活の仕方を知り、保育者に手伝ってもらいながら、自分でできた喜びを味わう。
- 入園当初新入園児は、自分の持ち物の置き場所があることを知り、保育者と一緒に始末をする。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎自分の持ち物やその置き場所を示す「自分マーク」が分かる。
- ◎自分の持ち物の置き場所を知る。
- ◎自分の持ち物を決められた場所に自分で置こうとする。
- ◎自分でできたうれしさや、自分の持ち物を片付けてから遊んだ方が気持ちが良いことを感じる。

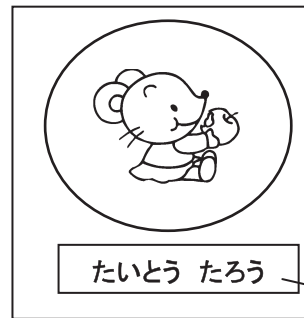
《活動の概要》

- ・子どもが登園後、「自分マーク」を見ながら決められた場所に、かばん、帽子などを掛ける。

《環境》(保育室)

- ・園が決めた一人一人の「自分マーク」を、入園前に家庭に知らせ、子どもと一緒に確認しておいてもらう。
- ・持ち物の置き場所の分かりやすいところに「自分マーク」と名前を貼っておく。
- ・登園時には、子どもの動線に配慮し、タオル掛けを見やすい場所に移動させておく。子どもが場所を覚えられるよう、慣れるまでは、常時同じ場所に置く。

「自分マーク」の例



動物や食べ物、乗り物など、子どもが親しみをもてるような絵柄にする。

たいとう たろう

子どもの名前。

帽子、かばんの置き場所の表示



ぼうし

りゅっく





着替えを入れる引き出しの表示



ロッカーの表示

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②自分のロッカーの所に行き、帽子、かばんを所定の場所に置く。かばんからタオルを出しタオル掛けに掛ける。</p>   <p>⑦帽子、かばん、タオルを所定の場所に始末し終える。</p>	<p>①子どもが安心して一日の生活を始められるように笑顔で迎え、一人一人にあいさつをする。</p> <p>③全員の様子を見ながら、<u>一人一人の思いに寄り添い、一緒にやったり、所定の場所に置けたことを喜んだりする。笑顔でやさしく言葉を交わしながら接していく。</u></p> <p>④自分で所定の場所に置いている子どもには「<u>自分でできたね。</u>」などと<u>一緒に喜ぶ。</u></p> <p>⑤帽子をフックにかけようとしているがうまくできない子どもには、「<u>こうやってかけようね。</u>」など、<u>保育者がやって見せながら声を掛ける。</u>また、「<u>ここ(ループ)を持ってやるんだよ。</u>」など、<u>やり方を分かりやすく伝える。</u></p> <p>⑥帽子もかばんを置かずに遊んでいる子どもには、子どもの様子を見て声を掛けるタイミングをはかり、「<u>かばんがあると邪魔だね。</u>」などと声を掛け、<u>一緒に片付け「これで、いっぱい遊べるね。」と喜ぶ。</u></p> <p>⑧「<u>すごいね。</u>」「<u>自分でできたね。</u>」などと<u>できたことを子どもと一緒に喜ぶ。</u></p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

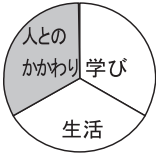
3つの柱 生活

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 持ち物の始末を一緒にしたり、言葉を交わしたりなど温かくかかわることで、信頼関係を築いていき、子どもが安心して一日の生活を始められるようにする。
- 個人差に配慮し、一人一人に応じた援助をきめ細かく行う。
- 自分でできるように、持ち物の始末をしやすい環境を作り、自分のことは自分でしようという気持ちを高める。
- 週単位、月単位でゆっくり、繰り返し指導を重ね、幼児に無理なく生活の仕方が身に付いていくようにする。

◆小学校につながる点

- 自分の持ち物の始末をすることは、整理整頓や片付けの第一歩であり、生活習慣や学習習慣の基本につながる。
- 自分のことが自分でできることで自立が促されていくことにつながる。



3つの柱

人とのかかわり (例)

「ヒーローだよ」(ヒーロー遊び)

3歳 10月

《ねらい》

- 同じ場にいる友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。
- 同じ遊びの場で友達と一緒にいたり、かかわったり、触れ合ったりすることに快さを感じる。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

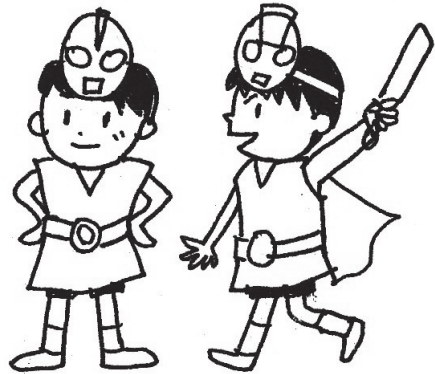
- ◎友達と同じような物を身に付けることを楽しむ。
- ◎友達と同じ場で過ごす中で自分なりの動きを楽しむ。

《活動の概要》

A児、B児、C児は、同じようなお面、ベルト、マントを身に付け、剣を持って遊ぶ。それぞれが自分のイメージで遊ぶ。A児が巧技台を自分の部屋にするが、B児、C児も中に入りたくなりトラブルになる。保育者が新たに巧技台を出すことで、それぞれ「自分の基地」ができ、一緒に楽しんだ。

《環境》(保育室)

友達と一緒に遊びが楽しくなるような、身に付けるお面、ベルト、マントなど。



なりきって動ける場(音楽によって動く場、ジャンプする巧技台など)。カセットデッキ、音楽テープなど。

自分で作り、持って遊べる材料、道具
ブロック、空き箱、広告紙、セロハンテープなど。



安全面から剣は当たっても痛くないような素材で作るようにする。



《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
② A児は、お面、ベルト、マントを身に付け、剣を作る。	① <u>簡単に身に付けて、なりきれるお面、ベルト、マントなどを用意しておく。</u>
④ A児の様子を見て、B児も同じように身に付ける。	③ <u>「〇〇ちゃんと一緒に。」と思えるように、適切な数を用意しておく。</u>
⑥ C児は、空き箱を探し、「ここにカードを入れるんだ。」とベルトに空き箱を貼り付け、身に付ける。	⑤ <u>見立てたり、3歳児なりに自分で作ったりできるような、材料を用意しておく。</u>
⑦ 3人で、巧技台で作ったジャンプ台でジャンプする。 「ウルトラ〇〇!」「〇〇ライダー!」「〇〇セイジャー!」と、それぞれがポーズをとって跳び下りる。	⑧ <u>一人一人がそれぞれのイメージで動いていることを認めていく。</u>
⑨ A児が巧技台を持ってきて中に入り、「ここはウルトラ〇〇の部屋。」と言う。B児が中に入っていく、A児が「ダメ!」と言い、トラブルになる。	⑩ <u>一人一人のイメージを大切にし、B児にも巧技台を提案し、A・B・C児それぞれが入れる場を用意する。</u>
⑪ B児、C児もそれぞれの巧技台に入り、基地ごっこになり、遊び続ける。	⑫ <u>「お隣同士だね。」と声をかけるとうれしそうにする。</u>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人とかかわり

学び

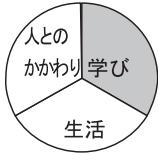
3つの柱 人とかかわり

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 一人一人の気持ちが満足することを大切にし、自分の気持ちが安定することで、友達に関心をもち、「かかわりたい。」という思いがもてるようにする。
- 「同じ、一緒。」と感じて親しみをもてるようにアイテムを用意したり、2～3人でかたまって遊べるような場を保障したりしていく。
- 友達とかかわって遊ぶ楽しさを保育者が共感し、声に出して認めていく。

◆小学校につながる点

- 自分のやりたいという気持ちが満足することで遊びが楽しくなり、「友達と遊ぶのもっと楽しい。」という気持ちをもつことで、人とかかわる楽しさを感じることにつながる。



3つの柱

学 び (例)

「お姫様になりたい」(製作活動)

3歳児 11月

《ねらい》

- 自分の思いやイメージを動きや言葉で表す楽しさを感じる。

《経験させたい内容》

- ◎身近にあるものを使って見立て、自分なりの思いやイメージを実現する。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《活動の概要》

- ・お姫様のように長い髪になりたい子どもが紙テープとお面バンドで髪を作る。
- ・周りの子どもも同じように作る。
- ・髪の長さを工夫したり、リボンなど飾りを付けたりして自分のイメージを実現させ、楽しむ。

《環 境》



素材を扱いやすく

自分のイメージを実現することができるような様々な素材を用意しておく。

扱いやすい長さの紙テープ、扱いやすい大きさや形、色の色画用紙、セロハンテープ、のり、はさみ、広告紙、ステープラー、ストロー、パス、水性ペン、空き箱、ラップなどの芯、カップ、牛乳パックなど

なりたいものになれるようお面バンド等も置いておく。



製作の様子

《活動の展開》

子 ど も の 姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>① 女児数名がドレスやスカートを身に付けて、お姫様になりきって遊んでいる。</p> <p>② 髪が短いA児が「長い髪になりたい。」「お姫様みたいな髪の毛になりたい。」と言う。</p> <p>④ A児は製作コーナーに行き、「あ、これにしよう。」と紙テープを切り、自分の髪に直接セロハンテープで付けるが、すぐにとれてしまう。</p> <p>⑥ お面バンドを見つけて「これに付けてみよう。」とお面バンドに紙テープを付け、髪の毛を作り始める。</p> <p>⑧ 「Aちゃんみたいにしたい。」と他の数名の女児が言う。</p> <p>⑩ 「くるくるでかわいい。」と髪が長くなったことを喜び、お姫様になりきって遊ぶ。</p> <p>【翌日】</p>	<p>③ 「どうしようか？何かいいものはないかなあ。」と製作コーナーに意識を向けさせる。</p> <p>⑤ 「困ったね～すぐにとれちゃうね。」と幼児の思いを受け止めながら、「何か(いいもの)ないかなあ。」と一緒に製作コーナーを探す。お面バンドに気付かせる。</p> <p>⑦ 「いいこと考えたね。」などと認める。</p> <p>⑨ 保育者も同じように作りながら、<u>髪の毛の長さを同じにしたり、前髪と、サイド、後ろで長さの調節ができたりすることに気付かせる。</u></p> <p>⑪ 明日も続きができるよう、髪の毛の付いたお面バンドの片付け場所を子どもと一緒に考え、片付ける。</p>
<p>② 昨日作ったお面バンドにさらに紙テープを増やし、お姫様らしい髪になってくることを喜んでいる。</p> <p>③ 「次は青い髪の毛の□□になる。」「私は黄色の○○でリボンを付ける。」「リボン、付けよう。」などイメージが膨らみ、作り始める。</p>	<p>① <u>リボンや飾りなども作れるように、リボンやハート形の紙やリボン結びにしたリボンなどを用意しておく。いろいろな色の紙テープも補充しておく。</u></p> <p>④ <u>子どもの考えを受け止めたり、イメージを実現するための方法を一緒に考えたりしていく。</u></p>

3つの柱 **学 び**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 自分のイメージを動きや言葉でのびのびと表現できるよう、一人一人の表現を受け止め、一緒に楽しんでいくようにする。
- 3歳児なりに自分で自分のイメージを実現できるよう、扱いやすい素材、少し手を加えることで実現できる素材、見立てやすい遊具などの準備、自分から取り組みやすい物の置き方等の環境を整える。

◆小学校につながる点

- 自分なりのイメージを3歳児なりに実現していく楽しさを経験することは、新しいことを学ぶ意欲や、挑戦する楽しさ、探究心の芽生えにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人とかかわり

学び

保護者との連携・理解啓発（例）

「園生活を理解してもらいましょう」

（入園・進級初めての保護者会の工夫）

3歳児 4月

ねらい

- 保護者に、新しい環境での生活や、1年間の保育教育内容を理解してもらう。
- 懇談を通して、新入園児・進級児の保護者との信頼関係を深め、子どもの家庭での様子や保護者の子育て方針を聞いて日常の保育に役立てる。

計画のポイント

- 入園・進級して間もないので、園の生活の様子を撮影したビデオ映像を活用し、保護者に生活の様子を理解してもらうようにする。
- 園の教育方針、1年間の保育教育活動等を理解してもらうよう、具体的な子どもの姿を交えながら分かりやすく伝える。

保護者会の概要と留意事項

保護者会の概要

（おたのしみ活動・・・
・・・「紙コップ人形作り」など）

- 1 あいさつ
- 2 園の保育・教育目標、保育・教育の理念、経営方針の説明

「ちいさな芽 保護者向けリーフレット」の配布・説明

アンケートへの質問事項の回答他
- 4 職員紹介
- 5 年間活動予定の説明
- 6 保護者の自己紹介

留意事項

- ・保護者が出席しやすいよう、4月初、日程を知らせます。個別にも声掛けをし、多くの方が参加できるように配慮します。
- ・全員がそろそろ前など、待ち時間がある場合には「おたのしみ活動」を用意しておきましょう。雰囲気や和らげるため、また、園生活を知ってもらう意味で子どもたちが一緒に遊んでいる「紙コップ人形」の製作など、工夫してみましよう。
- ・新入園児、進級児の保護者を交え、親睦を深めます。
- ・「ちいさな芽 保護者向けリーフレット」を配布し、台東区においては「台東区幼児教育共通カリキュラム」に沿って3歳児からの保育・教育が実践されていることを分かりやすく説明します。
- ・前年度の保護者アンケートにある質問などに回答します。また、意見については理解が得られるようにしていきます。

- 7 「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについての説明
看護師（保育者）より

- 8 3歳児の保育教育目標、4月のねらいと子どもの様子の説明
ビデオ映像を全員で見る



映像を取り入れて活動を説明

- 9 連絡事項

- 10 懇談

テーマの例

- ・名前の由来
- ・子育ての一年間の目標 など



懇談の様子

- 11 まとめ

- 12 閉会

・保育者や看護師などから、健康面についての話や、早寝・早起き・朝ごはんの大切さについて伝えていきましょう。都や区関係諸機関の参考資料をもとに分かりやすく示していきます。

・3歳児の保育・教育について保護者に伝えたいことを明確にし、事前に取り上げる場面について計画を立てます。ビデオ映像は、子どもたちの様子や細かい表情やしぐさ、遊びの様子、保育者のかかわり方などを効果的に編集してまとめておきます。

・大画面テレビやプロジェクターなどを活用して映し、園長や担任が場面や園の指導の方針なども併せて解説していきます。日頃の保育・教育に安心と信頼感をもっていただけるようにします。

・3歳児の4月に大切にしたいことを具体的な子どもの姿から伝えていきます。

・懇談のテーマの例「名前の由来」「保護者の子育て一年間の目標」はあらかじめ保護者に伝えておきます。同じ年代の子どもをもつ保護者として悩みや相談ごとなど、気軽に話せる雰囲気づくりをし、保護者同士が話しやすい場を提供していきます。



3歳児の特徴を伝えましょう

保護者との連携・理解啓発（例）

「クラスの親子で楽しく過ごそう」（親子遠足）

3歳児 4～5月

ねらい

- 園の教育活動についての理解を図る。
- 親子同士の親睦を図り、クラスの一員としての意識をもつ。
- 集団行動の仕方を親子で知る。

計画のポイント

- 初めての遠足、保護者の参加行事であるので、遠足の目的や教育的意義、集団としての行動の仕方など「おたより」等で事前に分かりやすく伝えておく。
- 園の実態を踏まえ、ねらいの達成に即した場所、時程、内容等を考え立案する。
- 安全面や公共の場所で過ごすことへの配慮をし、保護者にも協力を図る。

親子遠足の流れと留意事項

【事前】

- 「年間行事予定」や「園だより」等で早めに保護者に日程を知らせる。
- 遠足の手紙で当日の流れや行き先等の連絡事項と遠足の目的やそのために協力を図りたいことについて分かりやすく伝える。
- 「未就園の子どもを連れて行きたい」「就労等で保護者は参加できない」などの様々な事情については、保護者の思いを受け止め園の方針も伝え、解決策を共に考えて折り合いを図っていく。
- 初めての遠足なので、子どもも保護者も期待が大きい反面、不安な思いもあることが予想できる。期待感に共感するとともに、不安な思いも受け止め、保護者からの質問等についてははていねいに対応していく。
- 安全面、集団としての行動の仕方についても「おたより」や前日の降園時等で具体的に伝える。



親子でふれあい

保護者各位

平成23年5月14日

台東区立〇〇〇園
園長 □□ □□

親子遠足のお知らせ

入園、進級して約一ヶ月が過ぎました。子供たちは新しい環境に日に日に慣れて、好きな遊びや場を見つけて元気に遊んでいます。さて、初夏の自然の中で親子一緒に楽しいひとときを過ごしたいと、下記のように親子遠足を計画いたしました。ご協力よろしくお願いいたします。

記

- 1 ねらい ・自然の中で親子で体をのびのびと動かして遊んだり散歩を楽しんだりする。
・一緒に遊ぶ中で親子、保護者同士の交流を図り、互いに親しみをもつ。

遠足の目的

2 月日 3 場所 4 集合場所 5 時程 6 費用

- 7 服装 幼児 半袖体操服、紺半ズボン、はき慣れた運動靴
カラー帽子
保護者 動きやすい服装、運動靴
- 8 持ち物 幼児 園かばん、お弁当、水筒、お手持タオル、ビニール袋、ハンカチ、ちり紙（ズボンのポケットに入れてください）
自分のものは自分で持ちましょう。
保護者 お弁当、敷物、幼児の着替え一式、おやつ（少量）

- 9 お願い ・当日、欠席の場合は、8：30までにご連絡ください。
・親子のふれあいを楽しみながら、同じクラスの親子同士の親睦深めたいと思います。できれば、小さなお子さんはおんぶするなどご配慮いただけるとありがたいです。当日はお子さんと一緒に楽しい時を過ごしましょう。
・団体行動ですので、時間をお守りください。
・公園での遊び方やゴミのちり紙、電車中での行動などマナーを守り、お子さんのお手本となり教えていきましょう。
・船の中、電車、駅などの飲食はしないようにしましょう。周囲の景色を楽しんだり、親子のふれあいを楽しんだりしましょう。安全には十分気を付けていきましょう。
・駅、公園の中で食べ物や飲み物を購入しないようにしましょう。
・お子さんのトイレには必ず付き添うようにしましょう。

保護者に協力していただきたいことや配慮点

〇〇〇〇（集合場所） 10：15集合 時間厳守

地図

最後に参加申込書を付ける

※ご不明の点、ご心配なこと等ございましたら職員までお知らせください。

【当日】

活動の流れ

- 1 親子で集合
 - ・あいさつ
 - ・今日の流れについての説明
- 2 クラスごとに遊ぶ
 - ・親子ペアであいさつゲーム
 - 親子で歩き音楽が止まったら、出会った親子と名前を言い合い握手をする。
 - ・「むっくりくまさん」

「むっくりくまさん」

簡単な追いかけ鬼遊び。

音楽に合わせて、くま(鬼)が眠っている周りを子どもたちが丸く囲み手をつないで回る。音楽の合図で、くまが目を覚まし、子どもたちを追いかける。音楽の合図で、くまは、また眠る。子どもたちは先ほどと同じように手をつないで回る。この動きをくりかえす。

- ・手遊び
- ・親子でのふれあい遊び
 - 例：「おふねがぎっちらこ」
 - 向き合い座り足を伸ばし手をつないで前後に体を動かす。
 - 「なべなべそこぬけ」
 - 向き合って手をつなぎ、ぐるっとまわって背中を合わせまたもどる。

- 3 親子で散策する



同じクラスの親子で一緒にお弁当

- 4 弁当を食べる
- 5 親子で集合し解散

配慮事項

- 1 ・保護者が見通しをもって動けるように全体の流れを伝える。
- 2 ・親子同士が親睦を図れるよう、自然にかかわれるような遊びを行う。
 - ・子どもが園でしている遊びも取り入れ、園での様子を伝える。
 - 音楽テープ等、遊びに必要なものを用意する。
 - ・親子のふれあい遊びも取り入れ、家庭でも楽しめるようにしていく。
 - ・保護者不参加の子ども、参加している祖父母、妊娠中の保護者への配慮をする。



親子でふれあい

- 3 ・親子同士がかかわれるように、仲介し、互いをつなげていく。



親子同士のかかわり

- 4 ・クラスごとにまとまって食べる。親睦を図れるように配置等に配慮する。
- 5 ・楽しかった思いに共感し、安全に気を付けて家に帰るよう話す。

【事後】

- 写真を掲示したり、感想を園だよりに載せたりして、楽しかった経験を共感し合えるようにする。
- 反省や評価を行い、保護者との連携の課題をとらえ、今後の連携に活かす。

保護者との連携・理解啓発（例）

「園生活を理解してもらいましょう」（保育参加）

3歳児 6月頃

ねらい

- 園生活の様子やその時期の子どもの育ち等について「保育参加」の体験を通して理解を深める。
- 保護者が保育者となり保育にかかわってもらうことで園の保育・教育への理解につなげていく。

計画のポイント

- 年度初めの保護者会において「保育参加」の計画について周知する。
- 子どもの様子をよく見てもらうことや、日頃の保育を理解してもらうために、一日の参加保護者数に配慮する。

保育参加の流れと留意事項

【事前】

- ・動きやすい服装で参加してもらう。
- ・当日の保育・教育のねらいや流れ、子どもへのかかわり方について簡単に説明する。

【当日】

- ・半日参加の例
参加の時間については園の実態に応じて柔軟にする。ここでは午前中のみ半日参加の事例について示す。

保育参加の流れ

9：00～9：30 親子で登園

9：30～ 保育についての説明
 ・「保育参加」の主旨について
 ・保育・教育のねらいについて
 ・活動内容について
 ・見てもらいたい点について
 ・保育参加者としてのかかわり方について

9：45～ 好きな遊び
 クラス全体での活動

11：20頃 昼食
 降園または食後の遊び

12：30頃 ホールに移動
 午睡
 終了

（＊希望により個人面談を行う）

留意事項

- ・説明は、ポイントを押さえ、分かりやすく行う。
- ・「見てもらいたい点」には、この時期の子どもの発達や保育・教育のねらいにかかわる姿とともに、参加者の子どもの成長や課題についても含めていく。
 ※運動への取組、話を聞く態度、友達とのかかわり方など

- ・保育者は可能なかぎり、参加者に保育の状況を説明し、子どもの育ちやその場面での保育者のかかわり方等について話していく。
- ・保育者は親子のかかわり方、雰囲気などに配慮をしていく。

- ・希望する保護者に個人面談を行い、具体的な子どもの姿をもとに話し合う機会をもつ。「保育参加」の感想などを交えながら園での様子を話し、家庭での様子と違うところなどについても聞き、共通理解を図る。

【事後】

- ・保育参加後、感想を出してもらい保護者の声を聞いて今後の保育・教育に活かしていく。
- ・保護者と子どものかかわり方から見てきた子どもの育ちを理解して保育・教育に活かしていく。
- ・保護者の了解を得て「保育参加」の様子を写真掲示や「園だより」に掲載し、園の教育・保育の理解へとつながるようにしていくこともよい。



「パパ先生」の絵本の読み聞かせ



「ママ先生」と一緒にダンス

工夫してみましよう

半日の「保育参加」が難しい場合は、3歳児の実態を踏まえた「保育参加」をねらいに沿った形で工夫していきましょう。

- 例えば
- 園の生活が安定した時期から、弁当や給食の時間に「保育参加」してもらおう。
 - 降園前に早めに来て、弁当や給食から降園時まで「保育参加」してもらおう。
 - 朝のしたくがしっかりとできるようになった時期に、登園時から1時間程度「保育参加」してもらおう。

年間を通して、保護者の保育参観、保育参加の機会をつくりましよう

園の日常的な保育・教育への保護者の参観、参加については、年間を通して様々な機会を利用して設定していき、園の保育・教育への理解を図るようにしていきましょう。それぞれの機会については、計画の立案から保護者のかかわり方を明確にして、園と保護者が共通理解していけるようにすることが大切になります。



保護者と一緒にフープ遊び

配慮点

- ・日程は、年度当初に保護者に伝え、多くの方が参加できるようにします。
- ・普段、園に来る機会が少ない方も参加できるように、土曜日や日曜日にも参観日を設けるとよいでしょう。
- ・参加人数を事前に把握し、活動の進め方や場の設定を工夫します。
- ・保護者の方が力を発揮できるような活動を取り入れましょう。
- ・子どもの発達や実態を参加者に伝え、子どもにとって意味のある活動になるようにします。

